



李師古

王明

三

立元

しるしをたて

とくちのう

一、た、り、き、

客入

夏文冲题

五十七

五、
標記

5の3乗

卷之五

人海詩歸

學平

白年加

寫字

ふたふたふたふた

三

卷之二

士嘉堡

2000

必せんよろし

學也

1950

此是内証也

たふし

おとこたち

明子新菊

月々きぬしる

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

上巻、上使臣

陳叔子

卷之六

子
一
也

一、

一

九月

大德

陳國

三

【釈文】

猶以、長雨ニ其元
水出申候哉、無心元候、
九州筑後^{（立花）}高^{（藩）}塩^{（藩）}
さし、立花殿知行所
など大分そこね候様ニ
申候、以上

飛脚遣候間申候、
其地別条無之候哉、
此間者左右もなく、
其ため申遣候、
爰元御静謐ニ^{（家光）}
兩上様御機嫌能
被為御座成候間、可
心安候、此間は長雨、
近年か様之義ハ^{（覺え）}
おほへ候事無之候、
其元水なと出候哉、
無心元存候、当年
仕置等大事ニ候間、
必多んりよなく、國中
之様子聞つくろい、
九郎兵衛・内匠^{（神谷）}なとと
たんかう被申可給候、
ひかへ候事、ためニ^{（為）}
成間敷候、当霜
月御そくゐ之義ヲ
兩日以前被仰出、
上方へ為上使、酒^{（酒）}
讃岐殿・松平伊豆殿^{（信忠）}
近日御越候、何事ニ
よらすかわる事候者、
早々申可越候間、必
きつかい有間敷候、
謹言

出羽

九月四日 直（花押）

大橋茂右衛門殿
堀尾但馬殿
三谷半太夫殿

②

【読み下し】

猶^{なほ}以て、長雨に其元水^{もとみづ}出で申し候^や哉、心元なく候、九州筑後筋高塩さし、立花殿知行所^{ちかぎ}など大分そこね候^や様に申し候、以上
飛脚遣し候間申し候、其地別条これなく候哉、此間^{こゝ}は左右もなく、其ため申し遣し候、爰^{こゝ}元御静謐に兩上様御機嫌よく御座ならせられ候間、心安かるべく候、此間は長雨、近年か様の義はおぼえ候事これなく候、其元水^{もとみづ}など出で候哉、心元なく存じ候、当年仕置等大事に候間、必ずえんりよなく、国中の様子聞きつくろい、九郎兵衛・内匠などとだんごう申され給うべく候、控え候事、ためになるまじく候、当霜月御そくいの義を兩日以前仰せ出され、上方へ上使として、酒讃岐殿・松平伊豆殿近日御越し候、何事によらずかわる事候はば、早々申し越すべく候間、必きづかいあるまじく候、謹言。

出羽

九月四日

直(花押)

大橋茂右衛門殿

堀尾但馬殿

三谷半太夫殿

※読みやすくするために一部の漢字をひらがなにあらためた。

【現代語訳】

飛脚を派遣するので書状を送ります。そちらは何事もないでしょうか。最近は何事もないので書状を送ります。こちらは静謐で二人の上様も御機嫌よくいらつしやいますので安心して下さい。最近長雨で、近年なかったような長雨です。そちらは洪水などになっていないでしょうか。心配に思います。今年は仕置等が大切ですので、決して遠慮することなく国中の様子を把握して、乙部九郎兵衛・神谷内匠と相談されてください。遠慮していることは私の為になりません。この十一月に(天皇の)即位を行うことを二日前に(將軍が)おっしゃられ、上方への上使として酒井忠勝・松平信綱が近日(京都に)お越しになります。何事であつても何か状況の変化があつたならばすぐに知らせますので、決して心配はしないで下さい。謹言。

出羽

九月四日

直(花押)

大橋茂右衛門殿

堀尾但馬殿

三谷半太夫殿

追伸、長雨でそちらで洪水などになっていないでしょうか。心配に思います。九州の筑後あたりでは、高潮が発生し、立花殿の領地などがかなり被害が出ているように聞かれています。以上。